

## 平成26年度研究評議会指摘事項への対応状況

### ○機関の運営

(1) 研究成果を消費者の使い手側につなげて行くために、民間の力などを利用すると良いのではないか。

(対応状況)

平成27年度は現在までに、共同研究として民間と4件、自治体と2件、受託研究として民間と5件、自治体と1件を新たに締結した。さらに民間の力を活用する方策を検討して参りたい。

### ○人材の育成

(2) 森林総研の将来は、人材の育成と研究者各々の研究遂行の責務の重要性の認識に掛かっており、それを踏まえて所としての取組を進めてほしい。

(対応状況)

新規採用者への新規採用研修、中堅研究者による研究プロジェクト企画研修、英語プレゼンテーション研究等、研究員のキャリア形成につながるよう各種研修を実施している。今後も充実させて参りたい。

### ○研究課題の設定

(3) 森林の持つ健康価値を評価する研究を進めてはどうか。

(対応状況)

今年度から、新たな交付金プロジェクトを開始するとともに、疫学的な研究実績を持つ研究者を新たに採用し、森林による健康増進効果等に関する研究に取り組んでいるところである。

(4) 再造林に関しては、低コスト化を一層進めてほしい。コンテナ苗の供給を促進する研究を進めてほしい。

(対応状況)

再造林を進める上で低コスト化は重要課題であり、林業機械作業との連携による一貫作業システムの導入、ならびに各地域におけるコンテナ苗による造林成績等の現地実証を公立試験研究機関と連携して進めているほか、コンテナ苗生産に必要となる効率的な「種子選別技術」を開発し、その実用化に向け取り組んでいる。

(5) 林業労働災害防止やコンテナ苗生産の先進事例の情報を、海外を含めて現場に示し、普及に努める様にしてほしい。

(対応状況)

労働災害防止のための研究開発、低コスト化に向けたコンテナ苗や生産システムのような先進事例等の普及を念頭に、季刊「森林総研」や各地でのシンポジウム等を通じて技術情報を広報してきた。また、先進事例の現地適用については、森林整備センターを通じた各地域での実証試験にも取り組んでおり、今後とも現場への普及に積極的に取り組んで参りたい。

(6) 人工乾燥材が流通の主役になっているが、乾燥技術に関して、実態に合わない宣伝もされている。木材の乾燥について科学的な根拠による評価をしてほしい。

(対応状況)

現在進行中の交付金プロジェクト「スギ大径木を一般建築用部材として利用拡大するための加工・利用技術の開発」などの各課題において、蒸気加熱、高周波加熱、これらと減圧との組み合わせ等、多様な加熱方式による効率的な乾燥技術に関して実験を行い、データの科学的な検討と検証を行った結果について、学会等を通じて公表しているところである。

(7) 研究課題に森林所有者や生産者の意向が反映される様にしてほしい。

(対応状況)

シンポジウム等で寄せられるご意見等を研究課題の進め方や今後の課題設定に反映するよう努めている。また、現在実施中の「攻めの農林水産業の革新的技術緊急展開事業」等では育林作業の低コスト化について、交付金プロジェクト「マテリアル用国内広葉樹資源の需給実態の解明と需要拡大に向けた対応方策の提案」では広葉樹等森林資源の活用等に関して、森林所有者や生産者の意見・要望を集約しているところである。

(8) 林業問題や環境問題では 2050 年とか、あるいは今世紀末までも見越した捉え方も必要ではないか。

(対応状況)

現在「2050年の森」の改定作業を実施しているところである。改定版は本年度中に公開する予定である。

また、長期的な展望を持った研究として、長期にわたる観測等を可能とする基盤研究を現在継続中であり、今後も継続して実施していくことを計画している。

## ○広報

(9) 研究成果の広報のためにシンポジウム等も開催されているが、東京近郊だけでなく多くの地域で開催する様にしてほしい。

(対応状況)

本所以外でも、全支所で公開講演会等を開催している。これらについて、森林総研ホ

ームページやプレスリリースで広くアピールを行っている。